

 <p>チボリの村ティヌオスで</p> <p>食べることが学ぶことと同じくらい大切な辺境地域の幼稚園では、子どもたちはご飯を炊く木切れや古竹を大切に抱えて登園します。</p>	 <p>2020年10月25日発行</p>	<p>NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11 TEL &amp; FAX: 045-500-9151</p> <p>E-mail: hands-mindanao@nifty.com http://hands-mindanao.a.la9.jp/ 郵便振替口座 00210-5-72693</p> <p>加入者名：ビラーンの医療と自立を支える会</p> 
---	--	---

## 現地協力組織/パートナー団体を介しての先住民族支援の課題 — 支援理念と住民のニーズのバランス —

「古巣に戻ってきました！ 覚えていますか？」8月初め、CMIP/Catholic Mission to Indigenous People 新代表マニー神父からメールが届きました。3月末に辞任したマーク神父の後任です。

最初に関わったCMIP(当時はCMB)代表は、1996年初め、ドールのプランテーションや多国籍鉱山会社進出に抗議するビラーンの住民に引き合わせてくれたビトイ神父でした。以降約25年間に協働した神父は10余名、マニー神父の名に聞き覚えはあるものとともに実施した事業までは思い出せません。またご一緒できて嬉しいと返信させていただきました。

CMIPとは先住民族支援の理念「民族のアイデンティティである伝統文化の継承、先祖伝来の土地や環境を守る」を共有し、継続して協働してきましたが、現地事務所を持たず、住民の声を直接聴く機会が少ない私たちとしては、前号本欄の「本当に現地で役立つのか」は常に心に留めたい課題です。

8年前のエドウィン神父時代に、プランテーションが拡大していたチボリ町マアンで実施のアグロフォレストリーも、「役に立ったか」が気がかりな事業の一つです。村では病気や教育費等差し迫った出費への対応として、プランテーション企業に4年契約で土地を貸す事例が増えていました。パイナップル単一耕作による農地の荒廃を懸念したCMIPは、傾斜地農法による在来種や果樹苗木植林からなるアグロフォレストリーを住民に提案、私たちは助成金で支援しました。バナナは8か月ほどで収入源となりますが、樹木作物の多くは収穫まで数年必要です。私たちは村のハイスクール生を奨学金対象に含める支援も並行して行いました。

事業終了3年後、後任のマーク神父と苗木の生育状況モニターを実施しました。私たちの現地出張で訪問できる事業地域は限られていて、以降マアンを訪ねることができず、CMIPと私たちが住民に勧めた選択が正解だったかの検証はできていません。

2002年から協働する PFP/Partner for First People も CMIP 同様、非先住民族の組織です。スタッフには農業専門家が多く、私たちはその支援理念「傾斜地農法によるアグロフォレストリーで、先祖伝来の地で環境保全と収入向上を図る」を共有し、25 余りの村で研修や苗木を植える支援をしてきました。ただし、CMIP との協働事業同様に、年 2-3 回の現地訪問では、過去の事業地域をくまなく訪ねて、PFP との協働事業が住民の真のニーズに応えられたかの検証はできていません。昨年度からの新規事業実施を控えて、評価活動に重点を置くという方針転換の背景には以上のような事情もあります。

CMIP も PFP も、20 世紀以降ミンダナオ島に移住した「ビサヤ人」「低地人」「クリスチャンフィリピン」等と総称される非先住民族の組織ですが、昨年度のモデル農場事業に続き、今年度はニト細工など女性の収入向上事業を協働している住民組織 TBA/Tud Bolul Association は、私たちが CMIP を通じて支援した奨学金で農業指導者となったビラーン民族ボニファシオにより組織された先住民族のグループです。

9 月末、その TBA から新たな支援要請が届きました。山岳部先住民族の村で最も重要な換金作物コーンの天日乾燥場と粒取り機です。輸送費がかかる辺境地域ほど、出荷するコーンの質量を減らすこれらの設備は必須です。一方で、私たちの支援理念は、土壌浸食を起こす山腹斜面のコーン単一栽培でなく、樹木作物との組み合わせによるアグロフォレストリー奨励です。この理念に基づき住民指導に当たっているボニファシオですが、仲間の住民たちの当面のニーズも無視できずに、要請をそのまま取り次いだということのようです。

アグロフォレストリーで植えるココヤシの実の乾燥にも役立つ天日乾燥場に限り、次年度支援事業として検討する旨伝えました。

理念と住民の要望のいずれにも偏らないために、現地パートナー団体との緊密な連絡は欠かせません。幸い CMIP 新代表は前任者に比べてメール対応がよく期待しています。また「本当に役立ったか」を私たち自身が直接確認する上でもコロナ終息が待たれます。(山崎)